

1. 授業のねらい・概要

教育研究には大きく分けて二つのアプローチが存在する。ひとつは具体的な「教える－学ぶ」関係に着目するミクロなレベルでのアプローチ、もうひとつは社会システムとしての教育制度を対象とするマクロなレベルでのアプローチである。教育に関する理解を深めるためには、これらのアプローチがともに必要となる。本講義はこのうち、後者の社会制度としての教育を対象とするものである。教育制度の仕組みや歴史的変遷について学ぶことで、教育についてより立体的な考察を展開できるようになることが、本講義の目的である。

2. 授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

3. 授業計画

1. 講義の概要	9. 学校選択制①：日本の事例
2. 憲法と教育基本法①：憲法の理念	10. 学校選択制②：イギリスの事例
3. 憲法と教育基本法②：教育基本法の理念	11. 教育における自由と平等
4. 教育振興基本計画	12. 教育委員会制度
5. 学校の目的と目標	13. 全国学力テスト
6. 学校の組織	14. 中央の教育行政組織と教育財政
7. 学校評価制度①：学校評価の種類と現状	15. 講義のまとめ
8. 学校評価制度②：家庭・学校・地域の連携	

4. 到達目標

- ・教育制度に関する基礎概念や現代的課題について理解する。
- ・現代の教育問題について、制度的な観点から考察を行うことができる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

- ・配布資料および参考文献の読解（30分程度）。
- ・小テストおよび論述課題にむけての準備（1時間程度）。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）および期末試験（70%）をもとに総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

参考文献：土屋基規編（2011年）『現代教育制度論』ミネルヴァ書房。
木村元ほか（2009年）『教育学をつかむ』有斐閣。

8. 受講上の留意事項

「教職概論」および「教育基礎論」の内容を前提に講義を進めるため、原則的にこれらの科目を履修したうえで受講してほしい。明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く望む学生の受講を希望する。